

IPE 医療倫理 シナリオ

A. ダウン症の出生前診断

吹田さんは、36歳女性で、主婦である。家族は、会社員の夫泰昭さん、長男周平君、夫の両親の5人家族である。吹田さんは、10年前に、長男を妊娠した。吹田さんは気管支喘息の治療を継続しており、いつも自宅近くの薬局で治療薬をもらっていた。妊娠前・妊娠期間中は、ステロイド吸入薬の使用だけで、喘息はコントロールできていた。吹田さんの妊娠経過は順調で、M産婦人科医院で長男周平君を出産したが、ダウン症¹であった。そこで、医師田辺が吹田さん夫婦の遺伝子を調べたところ、吹田さんに原因があることが分かり、検査結果は、夫泰昭さんの同席のもと、吹田さんに伝えられた。吹田さんは、自分のせいで子供がダウン症になったとひどく罪悪感を覚えていたが、夫泰昭さんの協力もあり、長男周平君は今まで健康に育っていて、家族からも大変可愛がられている。そして、吹田さんはもう1人子供がほしいと思うようになり、最近、2人目の子供を妊娠した。しかし、吹田さんは、自分が原因でまたダウン症の子供が生まれないかと不安になり、長男の生まれたM産婦人科医院を受診することにした。医師Tは、2人目もダウン症の子供であれば生みたくないと思う吹田さんに対して、出生前診断²の説明をし、看護師Fは、もう一度夫泰昭さんとよく相談するようアドバイスした。夫泰昭さんは、もしダウン症の可能性があっても中絶をすれば、周平君が生きていることも否定することになると考えていて、出生前診断には前向きではない。

注1 ダウン症：23対ある染色体のうち21番染色体が三つあり、知能発達障害をもつ。

45歳以上の出産で100人に1人の頻度で生まれる。出生前診断が可能。遺伝が原因となるダウン症は全体の約2%程度と言われている。

注2 出生前診断：胎児期に先天性疾患や先天性異常の診断を行うこと。

問1 もし、あなたが吹田さんの立場であれば、出生前診断を受けますか、それとも受けませんか。

問2 もし、あなたが医療者として吹田さんや家族をサポートする立場であれば、どのように対応していけばいいと思いますか。

B. 終焉のとき

新庄さんは現在、28 歳、心理学の大学院を出たあとに、あるホスピス¹で心理カウンセラーをしている。キューブラー・ロス²が書いたように人間の死というものを受容するときにはさまざまな感情が入り乱れ、その感情をうまくサポートし、終焉のときを安らかに迎えていただくことが自分の仕事であり、生きがいである。

そんな、ある日のこと、35 歳の女性医師、宮内さんが入院してきた。病状は乳がんの全身転移で、余命は2ヶ月程度である。同じく医師である夫とは2年前に離婚し、子供は宮内さんが引き取って一緒に暮らしている。前夫はすでに再婚し、自分との間にできた子供のことなんて気にも留めていない様子である。子供は、9 歳になる正ちゃんと、6 歳のひろみちゃんである。毎日、宮内さんの母親が子供たちを病室に連れてくる。あどけなく、自分にまわりついてくる子供たちを見ていると、迎えなければならない死の瞬間への恐怖や緊張も忘れてくる。

あるとき、宮内さんが「自分の死を子供たちが受け入れてくれるでしょうか。私は医師ですから癌の末期の身体状況がどんな風になっていくかを存じています。そんなときにやつれていく私の姿を子供たちの心に残しておきたくないのです。今の親のぬくもりというもののだけ残しておきたいのです……あの子達は私が死んだら、お父さんもお母さんもいなくなるのです。」と新庄さんに言ってきた。

注 1 ホスピス：末期患者を対象として身体的・肉体的苦痛を緩和するための施設。医師、看護師、薬剤師、家族のほか精神科医、心理カウンセラーなどを含めたチーム医療が重要な役割を果たす。

注 2 キューブラー・ロス(1926～)：「死ぬ瞬間」を書き、死の医学の世界的なパイオニアとなった。

問 1 もし、あなたが宮内さんの立場であれば、終焉のときに子供と一緒にいてほしいですか？
それとも終焉のときを子供に見せないようにしますか？

問 2 もし、あなたが医療者として宮内さんや家族をサポートする立場であれば、どのように対応していけばいいと思いますか。

C. 民間療法と医療者

光ちゃん（4歳、男児）は、一年程前から重いアトピー性皮膚炎を患い、母親真紀と一緒に近所の皮膚科に通うようになった。この一年は、その皮膚科で処方される「ステロイド剤」を医師山野の指導に従って塗っていた。皮膚科の処方薬は、皮膚科の横にあるA薬局でもらっており、ステロイド剤の塗り方は薬局薬剤師からも説明を受けていた。母親は根気よく毎日ステロイド剤を塗っていたが、光ちゃんの病状はよくなるどころか悪化しているという状況だった。それでも母親真紀と光ちゃんは医師山野の指導に従って治療していたが、ある日、診察中に、母親真紀が「インターネットでアトピーのことを調べたら、ステロイド剤の他に漢方や温泉療法(民間療法の一つ)、それ以外にも色んな治療法があって、たくさんの人が試しているみたいなのですが、光ちゃんにも試してやってもいいのでしょうか。」と尋ねてきた。医師山野はああまたかと思い「ああいうのはあまり信用しないほうがいいですよ。とにかくステロイド剤をこのまま続けて下さい。」と言った。母親真紀は不満そうに、そうですか、と言い診察室から出て行った。母親真紀は、薬局Aに薬を取りに行った際に、診察室での出来事をなじみの薬剤師中山に伝え、「色々試してみようと思うんだけど」と話したが、薬剤師中山の返答は「山野先生の治療を続けたら良いと思いますよ」だった。

母親真紀と光ちゃんが帰った後、この皮膚科に勤めだして間もない看護師佐々木は、医師山野に「お母さんの不安も分かってあげて下さい。しっかりとした説明をしたほうがいいのではないのでしょうか。」と言ってみたが、どうも前々から医師山野はこのような方針で患者やその親に接しているようで、看護師佐々木の言葉を気に留める様子もなかった。その日以降、母親真紀とひかりちゃんは病院に姿を見せなくなった。

それから一年後、母親真紀は再び光ちゃんを連れて来院した。様々な民間療法を試したがうまくいかなくて病状が悪化したということだった。看護師佐々木はあの時自分だけでも母親真紀の話聞いてあげればよかったと後悔した。

注1 ステロイド剤：アトピー性皮膚炎など様々な疾患に対して効力を発揮する。薬効には様々な強さのものがあ、副作用もあるため治療効果とのバランスが難しい。

注2 民間療法：健康保険に認められておらず、健康補助薬・漢方薬・保険の通っていない免疫療法・絶食療法等がある。難治性疾患に対して多い。

問1 あなたは「民間療法」に対して率直にどう思いますか？

問2 あなたが医師山野の立場だったら、最初に母親真紀に相談されたときどのような対応をしますか？

問3 患者さんは、様々な人やメディアを通じて情報を収集しようとします。また、現在はインターネットの普及により、相当幅の広い情報収集が可能になっています。あなたが医療従事者の立場になったとき、患者さんが集めてきた情報をどのように扱いますか？

D. 小児の脳死下臓器提供による心臓移植

10歳のさつきちゃんは重い拡張型心筋症で幼い頃から入退院を繰り返し、ここ3年ほどはほとんど病院の外に出られず、安静にしているしかない。外で遊んだり、学校でみんなと勉強したいと窓の外を見て過ごす毎日である。母はさつきちゃんの病院に毎日通っているため、12歳の兄はいつも家で留守番しており、両親と過ごせたことはあまりない。心臓移植を受ければ普通の生活ができると言われており、移植待機者のリストに載っているがいつになるかわからない。いつ止まるかわからないさつきちゃんの心臓が、移植の順番が回ってくるまで持ち堪えられるのか、家族は不安な日々を送っている。また、さつきちゃんの両親は、自分たちの子供の心臓移植を待つと言うことは、誰かの子供の死を願うことになると考え、移植を待っていいのだろうか日々自問している。実際、日本では移植医療に対する世間の理解も進んでおらず、偏見もあるという。

病气らしい病気をしたことがない元気いっぱいの大地くん（7歳）がインフルエンザにかかった。大地くんの両親は、インフルエンザの薬を飲ませたし、大丈夫だろうとあまり深刻に考えていなかった。夜になっても高熱は続いていた。翌朝、呼びかけても返事をしない大地くんを見て、両親は、慌てて救急車を呼び病院に運んだ。下された診断は、インフルエンザ脳症。重篤な後遺症が残ることも、命に関わることもあるという。「もっと早く病院に運んでいれば。インフルエンザが流行っているのに人混みに連れて行かなかったら。」とICUの前の廊下で両親は自分たちを責めていた。懸命な治療がなされたが、大地くんの意識が戻ることはなかった。医師は回復の見込みはなく、脳死と判定されたこと、数日中に心臓も止まるであろうことを説明し、両親に臓器提供の意志を尋ねた。両親はこの数日、日に日に状態の悪くなる息子の様子を見ながら最悪の事態に覚悟を決めていたが、「臓器提供なんて考えたこともありません。」と父親は言い、「大地の体を傷つけないでください。」と母親は涙を流した。しかし、大人になったら消防士になりたいと言っていた大地くんの夢を思い出し、熟考の末、「人の命を守る仕事に就くという夢を持っていた大地が、誰かの中で生きていてくれるなら、大地の夢を叶えることになるのではないか」と提供を決めた。

- 1) あなたが大地くんを治療した医療者であったとしたら、大地くんを救えなかったこと、まだ動いている心臓を取り出すことをどう受け止めますか。
- 2) あなたがさつきちゃんの治療に携わってきた医療者であったとしたら、他の子供の死を願いたくないという葛藤を抱えながらも、さつきちゃんに元気になって長生きしてほしいと願う家族の思いをどのように支えますか？
- 3) 脳死下臓器提供による移植医療は、まもなく心停止する状態であるとはいえ他人の生命を持って行う医療です。それゆえ、日本では移植に対する無理解や偏見があります。移植によって、命のバトンは繋がれていくということに対してあなたはどのように考えますか？